

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	一般小売店〔生 花〕（経営者）	お客様の様子	・1月は高単価商品のスタンド花、誕生日のパラ50～60本の注文等が数件あった。全体的に良いとは言えないが、通常多い3,000円以下の花束等も結構売れ、予想していた最悪の売上ではなかった。
		百貨店（売場主 任）	お客様の様子	・夏のクリアランスと比較すると、客単価が上がり高額品の動きも良くなっている。気温が低いことも後押しをしており、防寒雑貨、防寒衣料の動きが良い。
		百貨店（営業担 当）	来客数の動き	・前月の来客数はほぼ前年並みであったが、今月は前年比プラスで推移していることから、景気の上昇傾向がうかがえる。買上単価も前年比プラスで推移している。また特選ブランドや高級婦人服、宝飾時計等高額商品も前年比プラスで推移している。
		スーパー（店 長）	お客様の様子	・売場の形態をディスカウント化して、食料品は先月と変わらず前年比120%台を維持している。衣料品も寒波の影響で前年比101%くらいで推移するようになっており、上昇傾向で推移している。
		スーパー（店 長）	販売量の動き	・年明けの初売りは、福袋の販売が非常に好調であった。単価は落ちているが、数量は前年を上回っている。また1月は寒波の影響もあり、重衣料を中心に非常に良く売れている。また青果物や野菜の高値により、売上が上がっている。
		コンビニ（販売 促進担当）	販売量の動き	・売上実績は量販店が前年比108.7%、コンビニが同104%、ローカルスーパーは同117.5%と好調に推移している。デリカに関しては、量販店が前年比105.7%、コンビニが同104.5%、ローカルスーパーは同125.6%と売上、予算共に前年を上回っている。内容的には客寄せの3～4割引を行った結果、量販店で大きな売上を上げている。
	その他専門店 〔ガソリンスタ ンド〕（統括）	販売量の動き	・灯油の小売価格は前月と比較するとやや上昇したが、例年よりやや寒く、出荷量は前年と比べ好調である。客からは温かい下着を購入しているといった話をよく耳にする。	
変わらない		商店街（代表 者）	お客様の様子	・来客数の変化はあまりない。買うか買わないかとなると、なかなか購買に至らない客が多い。同じ種類の物であった場合、価格の安い方に動く傾向は3か月前とほとんど変わっていない。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・年始から10日までは天候が悪く、非常に冷え込んでいたが、前年より来客数が10%増えた。しかしその後、来客数は前年比マイナスとなり、総じて売上、来客数共に変わらない。
		商店街（代表 者）	来客数の動き	・例年商店街の初売りには多くの人出があるが、今年は本当にまばらである。寒波のせいもあるが、非常に厳しい状況であり、福袋もほとんど売れていない。
		一般小売店〔精 肉〕（店員）	来客数の動き	・飲食店の販売量は依然低調のままであるが、個人客の来店が増えている。
		百貨店（総務担 当）	販売量の動き	・一部の雑貨、飲食関連商品に回復傾向が感じられるものの、アパレルの動きが非常に鈍く、全体的には横ばい状況である。
		百貨店（営業担 当）	単価の動き	・初商いは雪による交通規制で開店前の来客数が伸び悩んだ。福袋の売行きは好調で、特にブランド品の福袋、食品の福袋が好評であった。レジ客数や買上単価は共に前年を下回った。寒波により冬物衣料が好調で、目的買いの物産店やギフト解体等の催事は好調であった。
		百貨店（営業企 画担当）	販売量の動き	・セールが中心となる1月は購買意欲も高まり1月初旬は好調な滑り出しであった。しかしやはり、客の価格に対する意識は高い。気温が低い日が続く、防寒物の動きもあったが、中旬以降の寒波で外出する人が減り、売上に影響が出た。
	百貨店（営業企 画担当）	販売量の動き	・百貨店を取り巻く環境は厳しく、前年実績を維持するのに必死の状態である。富裕層の買い控え傾向があり、高年齢層をターゲットとした商品を中心に前年実績を下回って推移している。一方、食品や一部のセール品は前年を上回って推移するが、全館では前年実績に届かない状況が続いている。	

百貨店（業務担当）	お客様の様子	・店頭の状況から、客の支出に対する慎重さは悪化していない。これまでの節約志向から必要な物は買うという姿勢に変化している。ただ、積極的な買物ではなく、あくまでも必要最低限の買物に終始している。
百貨店（企画）	販売量の動き	・初売りを除く今月の売上は、積雪の影響による一時的な落ち込みはあったものの3か月前と同様に推移している。冬物重衣料はアイテムにより売行きに相違はあるものの、全体的には堅調である。1年前に比べると前年からの落ち込み度は小さくなったものの前年を超える水準までは戻っていない。
百貨店（売場担当）	競争相手の様子	・売上は前年比100%であるが、3か月前は同102%であった。市況については、近隣の大型店が前年比105～107%、その他の大型店も同107%となったが、3か月前はこれよりも若干良い感じであった。百貨店は来客数が少し減っており、売上と来客数に乖離がある。コートや宝石等が売れており、客単価、1品単価は上がっている。
スーパー（経営者）	販売量の動き	・年度替わり前となり、必要な物は買うが無駄な物は買い控える傾向がある。
スーパー（店長）	単価の動き	・来客数は増加しているものの、客単価は若干低下傾向である。しかし、1点当たりの買上単価は前年よりも上がっている。
スーパー（店長）	販売量の動き	・寒さの影響もあり、食品が好調である。客単価、買上点数共に大きな落ち込みはない。
スーパー（店長）	来客数の動き	・年末及び初売りに期待していたが、10年ぶりの大雪で幹線道路が凍結し、交通規制が発生したため、来客数は大きく減少した。1月2日以降持ち直し、食品及び福袋関連のまとめ買いが目立った。最終的に来客数、買上点数も前年並みに近づいた。しかし、3か月前と比べると大きな変化はない。
スーパー（総務担当）	お客様の様子	・気温の低下で冬物衣料の動きが期待されたが、中旬以降の最終処分セールまで客の反応はあまり良くない状況であった。価格にシビアな客の反応が良くみられる。
スーパー（経理担当）	販売量の動き	・今年の冬は寒い日が多く、消費も活発になる予想だったが、客単価の低下や競合他社との競争による買上点数の減少等により売上は減少している。
スーパー（業務担当）	お客様の様子	・例年、気温の低下が続くと冬物商材の動向は良くなり単価は上昇する。ただ、冬物バーゲンが年々早まっており、時期的に処分商材も少なく、衣料品や住居用品の寒さによる好影響が今年は少ない。ただし、食品については野菜価格の高騰にもかかわらず、販売動向は良く、販売点数も若干の上昇が見受けられる。全体として、先月までと大きな変化はない。
コンビニ（経営者）	単価の動き	・売上が前年を上回らない状況が続いている。
コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・たばこの値上げにより、売上は前年を上回ったが、来客数自体は前年を大きく下回った。来客数を増やすため販売促進を行っているが、回復できない状況である。
コンビニ（エリア担当・店長）	販売量の動き	・たばこは増税にはなったものの、禁煙をしていた客が、再び購入するようになる等、販売動向は大きく変わらない。客は必要な物を購入している。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・この冬は一段と寒い日が続き、重衣料が良く動いた。ただ、廉価商品も出ており、売上は上がらない。気候に左右され、仕入れの面で難しい状況となっており、景気は良くなっていない。
衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・気温の低い日が続き、客足が途切れており厳しい状況となっている。
衣料品専門店（店員）	来客数の動き	・天候が悪かったにもかかわらず、正月の初売りは福袋やクリアランス目当ての客でにぎわった。天候の悪い日が多かったが、寒さもあって冬物セールは順調だった。ただ、定価商品の売上は伸び悩んでいる。
衣料品専門店（総務担当）	それ以外	・販売量は全く増えず、客単価もなかなか上がらない。
衣料品専門店（取締役）	お客様の様子	・1月はセール期間となり、通常から半額となった商品が月末まであったが、相変わらず目的買いの客が多い。セールになったから、安いから余計な物まで買うという傾向は依然としてない。立ち上がりの正価販売品はトレンド感のある物だけが動き、セールでお買い得な物だけ購入する傾向は強い。

家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電はエコポイント制度が見直され、景気は悪くなると思っていたが、まだエコポイント対象商品の動きがみられる。3月までエコポイント制度が続くことを考えると、上向きとはいかないが今の状態が続く。	
乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・車の修理での来店はあるが、新車購入目的の来店が極端に少ない。	
乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・新車販売台数が落ち込んだままである。中古車販売、サービス在庫台数も思うように伸びず、計画する収益が確保ができない。	
住関連専門店（経営者）	単価の動き	・初売りでの置き家具の動きが年々悪くなっている。特に婚礼に伴う家具の動きがなくなっており、客単価が落ちている。	
その他専門店 [コーヒー豆] （経営者）	来客数の動き	・前年比で来客数、客単価、買上客数はいずれも微増となっている。ただ季節的なものであるが、寒いということもあり、客の来店頻度は前年に比べて低い。	
その他小売の動向を把握できる者 [ショッピングセンター] （支配人）	販売量の動き	・回復の兆しを期待したが、寒波の影響で客の動きが鈍くなっている。	
その他小売の動向を把握できる者 [土産卸売] （従業員）	単価の動き	・来客数はそれほど変わらないが、客の購入意欲が低下している。商品の購入数量、商品単価が低く、売上が増えない。	
スナック（経営者）	来客数の動き	・以前に比べて店の前の人通りはかなり減っており、特に週末営業の落ち込みがひどい。	
その他飲食[居酒屋] （店長）	来客数の動き	・年末から1月にかけて大変寒く、何十年ぶりかの大雪で、客の流れは急激に鈍くなり、仕入れに困った。	
観光ホテル（総務担当）	来客数の動き	・秋から今月にかけて、やや良い状態を継続している。特に一般宴会、宿泊が好調に推移している。	
観光型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・一般宴会、婚礼共に前年実績、予算をクリアしている。前年より人の動きはあるが、宿泊は前年から減少している。	
都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・一般宴会部門のは来客件数及び売上は引き続き順調に推移しているが、宿泊とレストラン部門が伸びていない。	
都市型ホテル（副支配人）	販売量の動き	・個人客の動きは例年通りであるが、旅行代理店扱いの団体客が前年比30～40%減っている。	
旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・年末年始は天候不順の影響で一部、取消や中止もあったが、概ね前年を上回った。それ以降も予約状況は順調で回復傾向が続いている。	
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は天候影響もあり、日中の客の動きが先月に比べて大変良かった。ただ近距離の客が多い。反面、夜の繁華街の客が先月より大幅に減少した。	
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は雪で笑って、サッカーで泣いた1か月であった。サッカーアジアカップの試合が始まると街中に客がいなくなり、乗客も減少する。対照的に雪が降ると、タクシー業界は大忙しとなる。	
タクシー運転手	お客様の様子	・人の動きは夜も昼もあまり変わりなく、タクシー利用も増えない。	
通信会社（管理担当）	それ以外	・相変わらず資金繰りが厳しい状況が続いている。	
通信会社（企画担当）	販売量の動き	・限られた客の取り合い状態が続いており、競合他社との競争が激化している。	
テーマパーク（職員）	来客数の動き	・例年1月は年末年始と3連休を除いて稼働の低い時期となり、今年も同様であった。	
ゴルフ場（従業員）	単価の動き	・プレー代が安価なイベント時の来場者数は良いが、土日の単価が高い日にはなかなか集客ができない状況となっている。さらにプレー代以外の食事や他の部門での消費単価も今月は特に冷え込んでいる。	
やや悪くなっている	商店街（代表者）	販売量の動き	・毎年のことであるが、年末年始で客の出費は多いため、余計な出費は抑えられる。また、今年は例年になく寒さが厳しく、海はしけ、天候不順もあり、魚や野菜の価格が高騰している。販売量は低調に推移し、売上は望めない。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・年末年始からの天候不順が影響し、来街者数は減少している。
	一般小売店[鮮魚]（店員）	来客数の動き	・例年1月の売上は悪いが、今年は特に悪い。年末の利益はもうない。とにかく客が来店せず、電話注文もない。寒さが影響しているかもしれないが、それにしても厳しい状況である。

	一般小売店 〔茶〕（販売・事務）	お客様の様子	・年末ギフトの影響で毎年1月の売上は上がらない。静岡のお茶がガンに良いとテレビで放映され、そのお茶だけは買い求めが多かったが、他の商品が売れていないため前年と変わらない。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・従来の客の単価は上がり、価格志向一辺倒ではなく、良い物を求めるような兆しが始まっている。その反面、その他の来客数がかなり減っている。総じて客単価は若干上がっているが、来客数が減っているため、前年にやや届かない、少し厳しい状況となっている。
	百貨店（営業担当）	それ以外	・口蹄疫からようやく回復しようとしていた矢先の鳥インフルエンザの発生により、市場は再び冷え込んでいる。客の動き、その他を含めて非常に動きが鈍くなっている。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・景気の先行き不透明感が依然として強く、消費者の低価格志向は変わらない。店頭での値下げ競争が続き厳しい状況となっている。
	スーパー（総務担当）	来客数の動き	・販売単価の減少幅は大きくないが、競合他社との競争が激化しており、来客数を前年並みに維持することが難しい状況にある。また、消費者の所得環境が依然厳しい状況にあることから、販売点数も減少している。
	家電量販店（総務担当）	販売量の動き	・前年の家電のエコポイント制度見直しの反動により、販売動向が悪くなっている。また大雪や鳥インフルエンザの悪影響も少なからずある。
	その他専門店 〔書籍〕（店長）	来客数の動き	・年末からの天候不順が影響してか、客足が鈍い。その上、寒さが厳しく、夜は早目に帰宅する客が多い。滞留時間が短くなり、購買点数が減っている。
	高級レストラン（支配人）	来客数の動き	・1月になり来客数の減少が顕著である。天候等の影響もあるがそれだけではない。
	高級レストラン（専務）	来客数の動き	・若い人は安くて飲み放題のある居酒屋には動いている。値段が高く、個性的な店は選ばない傾向がある。
	タクシー運転手	お客様の様子	・天候不順による豪雪、鳥インフルエンザ、火山の噴火等により農産物等に被害が出ている。物価が少しずつ上昇しており、客は懐を痛めている。客の節約志向は強まり、タクシー利用者も減少する。
	通信会社（業務担当）	販売量の動き	・スマートフォンや電子書籍等の人気は上がっているが、一部の人気商品に予約が集中し、全体の販売数は減少が続いている。
	ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・今冬の気温低下は例年より1か月早く始まっており、12月下旬から来場者数は低調に推移している。常連客であるシニア層は冬の寒さを敬遠してプレーを中断するため、3月までは来場を見込めない。
	美容室（経営者）	来客数の動き	・年々来店頻度が減っている。散髪、美容に関しては辛抱する客が多い。
	その他サービスの動向を把握できる者〔フィットネスクラブ〕（営業）	来客数の動き	・近隣の同業他施設の休業により、一時的に売上が伸びたが、それを除くと全体の売上状況は緩やかな下向きである。地域の景気も下向きである。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・年度末に向かって成約数が少しずつ出ているが、土地の売買に関する問い合わせ等が非常に少ない。状況としては大変苦しく、土地の動き自体が少なくなっている。
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・12月から1月にかけての異常な寒さやそれに伴う交通規制等により、客の出足が非常に鈍くなっている。売上に大きなダメージを与えている。
	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・口蹄疫が落ち着いたところに鳥インフルエンザ、火山の噴火、それによる灰の被害等で客の購買はかなり閉塞感を帯びている。
	衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・客の着物離れは顕著になっており、極端に悪くなっている。
	観光旅館組合（職員）	来客数の動き	・雪の影響によりバスが運休し、予約のキャンセルが多数あり、大きな打撃を受けた。
	通信会社（営業担当）	それ以外	・口蹄疫が終わり、これからという時に鳥インフルエンザ、火山の噴火、あるいは百貨店の倒産等幾重にも悪い状況が重なり、これから先の景気も悪くなる。
	美容室（店長）	来客数の動き	・景気が悪く、寒さも影響し、来客数が少ない。
企業動向	良くなっている	-	-

関連	やや良くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ オフィス家具の需要期は2、3月であるが、今年は前年度と比較すると問い合わせや受注等が全般的にやや上向いている。またホームユースの家具については底の状態のままで前年並みとなっている。
		精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 3か月前と比べると計画に基づいて生産投入数が増え、完了目標を達成した。
		金融業（営業）	取引先の様子	・ 取引先の業況をみると、製造業は増産しており、自動車、電機等で雇用の増加も顕著である。アジア向けの輸出品を中心に業況は順調に推移している。
		新聞社（広告）	受注量や販売量の動き	・ 食品通販や旅行広告で持ち直しの動きがみられ、1月は前年を超える出稿量があった。
		経営コンサルタント（代表取締役）	取引先の様子	・ 景気対策の反動減がある家電や自動車といった物は別として、その他の業種の売上はそこそこ順調に推移していると聞く。特に飲食関係はいくらか好転している。
変わらない		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 1月は例年、年末需要の反動から厳しい月であるが、今年は異常なほどの寒さから鍋物需要等が高まり、例年と違う良い動きになった。ただ鳥インフルエンザの発生により、原料集荷等で制約を受け始めている。特に販売面では輸出が減少した。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 引き合いはあるものの受注に結びつかず、売上が上がらない。
		一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 受注が少なく、回復の兆しがない。
		電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・ 半導体関連は一進一退の状況で推移しているが、ここにきて安定した状態で受注量が確保できている。なお、精密機械も同じような状況で推移しており、全般的に非常に安定した状態が続いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・ 受注価格が非常に安い方向に動いており、この受注価格の下落傾向はしばらく続く。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・ 生産量はピーク時の6～7割と横ばい傾向で推移している。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・ 消費者の財布のひもが固く、受注量、出荷量共に減少している。例年1月は低迷しているが、前年と比べても2割減くらいの出荷量となっている。
		輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・ 荷動きが良くない。しばらくはこの状態が続く。
		輸送業（総務担当）	取引先の様子	・ 預かっている荷物の荷動きが良くない状況で、景気はあまり良くない。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・ 取引先である年商1億円未満の中小企業は、売上高の低迷、利益赤字の状況が続いている。そのなかで、大半の取引先は、県の信用保証協会保証付の緊急経済対策制度融資を元金返済据置き返済条件で申し込んでいる。売上高の減少と利益赤字の資金補てんは、本制度融資で賄っている様子である。
		金融業（調査担当）	取引先の様子	・ 取引先の決算状況や倒産水準等からすると、2008年の米国のリーマンショックを底とした回復トレンドには変わりはなく、銀行の信用コストも大きな変化がない。緩やかな回復傾向にある。
		経営コンサルタント	それ以外	・ コンサルタント専門の会社は不景気の影響で縮小傾向にある。
		やや悪くなっている	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 農作物不作の影響で、原料不足や価格高騰、原料品質低下等、生産性が低下し、収益に影響がある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・ 毎年、年末年始はいくらか落ち込むが、今年は特に落ち込みがひどい。消費の低迷は雑貨部門においてひどくなっている。年明けてからの受注の状態が大変悪く、同業他社は教育訓練が休業を余儀なくされている状態である。
		建設業（社員）	競争相手の様子	・ 一部の同業者は技術者不足から競争入札に参加できずにいる。官公庁の発注物件が減少している現在は、これまで入札に参加できなかった地元大手が、格付を超えて指名競争に参加している。
		金融業（営業職 渉外係）	取引先の様子	・ 輸出関連企業のなかで急速に業績が悪化している企業が増えており、貸出金の条件変更の相談が増えている。

		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・ここ最近の貸出の受け付け状況は、新規、前向きな資金需要に伴う申込件数に比べ、既存の借入金に対する条件変更、1年間の元金ゼロ金利であるなど、返済条件の変更の申し入れが非常に多くなっている。そういった非常に厳しい状況となっている。
		その他サービス業〔物品リース〕（役員）	受注量や販売量の動き	・契約高が夏場から秋口にかけての上向き基調の水準にまで戻っていない。引き合い件数のなかで、小口案件は堅調であるが、大口の動きが減少傾向にある。
	悪くなっている	農林水産業（従業者）	受注価格や販売価格の動き	・食肉関係の販売は、今、牛肉の消費が非常に悪い。また飼料価格も値上がりしているため、非常に厳しい状況となっている。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・酒類業において、小売業、卸売業、メーカーすべて悪くなっている。
		その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・市町村の委託を受けて業務を行っている建設コンサルタントや調査会社は、業務の発注量が極端に減少していることから、入札時に、予定価格の40%以下で入札しているところがある。また下請を行っている業者では、事務所に備品を置いたままに行方がわからなくなったり、規模を縮小してワンルームに引越しを行ったりしているところがある。
雇用関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求職者数の動き	・駅ビルの開業に伴い、求人が活発化している。それに伴い周辺企業の採用難が顕在化してきた。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・国の雇用政策が継続されていることにより雇用枠が増えており、新聞求人広告が活発になっている。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年同月比34.8%増となっている。8月から5か月連続で前年同月比増となっており、企業間で業況に差があるものの改善がみられる。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・企業からの求人数が増加し、求人倍率は着実に上昇傾向で推移している。また、前年比で増加を続けていた求職者も減少に転じ有効求人倍率を押し上げた。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は3,226人、有効求人数は9,308人、新規求人倍率が1.41倍、有効求人倍率が0.69倍となっており、このところ増加傾向を示している。また円高基調による悪影響も現時点ではみえないこと等から、大幅な改善とまではいかないが堅調な動きとなっている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・派遣会社への注文も少ないが、直接企業が出す求人も多くはない。販売、医療系はあるようだが、事務系に関しては非常に少ないうえに、応募者が多く、なかなか仕事が決まらない人が多い。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・取引先からの求人数が伸びない。依頼があるのは不人気企業のみである。
		人材派遣会社（社員）	雇用形態の様子	・就職が決まらなかった大学生のための支援事業をやっているが、就職先は集まるが学生が集まらない。世の中では仕事がないと報道されているが、そうではない面もある。学生が就職先を選んでいるため、今年も決まらない学生が増える。
		新聞社〔求人広告〕	求人数の動き	・年末年始の求人特集は、前年を超える出稿があったものの、その反動が1月の求人は低調となっている。特集以降の動きがすべて前年を越えるようにならないければ、景気が上向いているとは感じられない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・新聞の求人広告は年明けも堅調で、病院関係、塾・予備校等の求人が季節柄調子が良い。九州新幹線全線開業を前に関連施設の求人にも多くの求職者が殺到し話題となったが、いずれも限定的で景気上向きとまではいかない。
		職業安定所（所長）	採用者数の動き	・新卒者の就職内定率状況をみると、高等学校卒業予定者、大学卒業予定者等いずれも前年同期比を上回っており、中小企業を中心として求人数は伸びている。依然として大手企業の志向が強いことから、求人と求職のミスマッチが生じている。新卒者への求人の増加に合わせ一般求人も増加傾向にあり、来月までの求人動向をみないと何とも言えないが、少なくとも緩やかな改善傾向に入った。
		民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・派遣依頼は九州の福岡地区では、時期的に単発の需要が高まっているが、地方ではまだ増加するには至っていない。

	学校 [大学] (就職担当者)	採用者数の動き	・平成23年3月卒業予定者に対する内定状況は、特に地元の事務系を志望する女子学生を中心に厳しい状況が続いている。一部、現4年生を対象とする求人が1月になって若干届いているが、学生の反応はまだつかめていない。この時期になると、4年生の未内定者は、あきらめや留年を選択している。
	学校 [専門学校] (就職担当)	採用者数の動き	・現在は欠員求人の募集がほとんどであり、景気浮揚による増員求人とはなっていない。
やや悪くなっている	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・上半期の業績が予想以上だったクライアントが多く、人材需要が高まったが、下期の決算への不透明感から人材需要は抑制傾向がみられる。
悪くなっている	民間職業紹介機関 (支店長)	雇用形態の様子	・人材派遣の求人数は前年に比べて増加しているが、短期もしくは単発契約が多い。